

「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成30年4月2日

仕事の内容	高齢者ほっと支援センターの運営		
担当部署・課長名	高齢介護課	地域包括ケア推進係	課長名 伊野宮 崇

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。

【施策】 高齢者保健福祉の推進

(総合計画書 51 ページ)

予算名	款 4 地域支援事業費	項 3 包括的支援事業・任意事業費	目 1 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業費	事業 1 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業費
-----	-------------	-------------------	--------------------------	---------------------------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 介護保険法に規定する被保険者等	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) → 各高齢者ほっと支援センターの担当区域における65歳以上の高齢者人口
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 高齢者ほっと支援センターが、高齢者及びその家族等に対してさまざまな相談に応じることで、高齢者等が住み慣れた地域で安心した生活を送ることができる。	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) → 不明
	③ そのために何をしましたか。 介護保険法に規定する被保険者等に対する総合相談の窓口としてさまざまな相談に応じ、情報提供や関係機関との調整、ケアマネジャー支援、介護予防に関する必要な援助を行う	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) → 各高齢者ほっと支援センターにおいて対応した、総合相談件数(権利擁護相談件数、虐待相談件数含む)

		単位	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成31年度目標	
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	21,957	22,350	22,711		
	成果指標	②の数値		不明	不明	不明		
	目 標	②の目標値					不明	不明
		目標値設定の考え方						
活動指標	③の数値	件	9,891	10,752	7,575			

3 経費		事業費(実績)	円	79,316,571	88,919,248	87,145,593	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外)年間単価は、8,253,000円 時間単価は、4,200円で計算してください。 【算出根拠】平成28年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
財源	一般財源	円	14,394,231	17,489,884	17,135,838		
	特定財源	円	64,922,340	71,429,364	70,009,755		
	(うち受益者負担)	円	0	0	0		
人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.5	0.5	0.5		
	所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0		
	職員人件費(再任用以外)	円	4,116,500	4,116,500	4,126,500		
	職員人件費(再任用)	円	0	0	0		
事業費+人件費		円	83,433,071	93,035,748	91,272,093		

この仕事における市の裁量 市の裁量は小さい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 平成18年の介護保険制度の改正により日常生活圏域に1か所の地域包括支援センターを設置することとされた。本市においても地域の高齢者が安心して在宅生活を送れるよう支援することを目的とし、平成18年に高齢者ほっと支援センターいもくぼときよはらを、平成24年に高齢者ほっと支援センターなんがいを設置した。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 高齢者人口の増と相談業務の増により、平成24年度に1か所増設した。平成27年4月に介護保険法の改正により、ますます地域包括ケアの中核的機関としての役割が求められており、業務も増大していたため、兼務ではあるが、人員を増やした。

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成29年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について
	平成29年4月1日現在、市内の65歳以上の高齢者人口が22,711人であるのに対して、ほっと支援センターの設置数が3か所となっており、1か所あたりの地域包括支援センターに係る業務量が過大であるといった指摘がある。

仕 事 の 内 容	高齢者ほっと支援センターの運営			
担当部署・課長名	高齢介護	課 地域包括ケア推進	係	課長名 伊野宮 崇

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択しご記入ください。(複数回答可)			
	取組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体：) ⑦後援・場の提供 ⑧その他()	
(2)平成30年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点をご記入ください。				
7 課 題	(1)平成28年度の課題についての解決に向けた取組や、事務改善など、平成29年度に実施したことをご記入ください。			
	毎月開催している高齢者ほっと支援センター業務連絡会議の際に、情報共有の時間を設け、お互い共通認識を持ち地域包括支援センター間の連携強化を図った。			
	(2)この仕事を振り返り、課題をご記入ください。			
増加している高齢者人口に対して、地域包括支援センターの設置数及び職員数が不足しており、センター職員の負担が増加している。				
8 今 後 の 方 向 性	(1) 仕事の方向性(「7 課題(2)」を踏まえた具体的な改革・改善案など)			
	今後も高齢者人口増にあわせ、高齢者ほっと支援センターの新設または人員増等の改善策を検討し、業務量が過大な状態を防ぐと共に、資質向上を図ることが必要とされる。			
	(2) 上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等を具体的にご記入ください。			
	これまでに実施されている他市の委託料と職員配置の状況について確認する。法人への予算説明時などに、適正な配置をしてもらうよう依頼する。 指定管理については、委託している他包括との委託料の整合性を図るため、債務負担の変更等の準備を行っている。			
(3) 改革・改善案による期待成果				
上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。				
成果	成果を向上させる。		経費	仕事の経費は維持する。